指定演題「Long-COVID への中医治療」

肝気虚による難治性咳嗽（昼千万咳夜静）について

About intractable cough（very frequent daytime cough, no nighttime cough）
caused by liver（TM） qi deficiency

渡邊善一郎[*1]
[*1]富士ニコニコクリニック
Zenichirou Watanabe[*1]
[*1]Fuji nikoniko medical clinic

【 緒言 】

西洋医学の治療に無反応な難治性咳嗽（昼咳夜静）に対して、肝気虚による条達失調と考え、黄耆建中湯・桂枝加黄耆湯を用いることで、速やかに治癒した症例を経験したので報告し、COVID 罹患後の多彩な病態の一因に、肝気虚があると推測している。

【 症例 】

① 13 歳男児、5 ヶ月前コロナ感染し、咳（昼多夜静）と水様性下痢が残り、その治療は、抗生物質 3 種、抗アレルギー剤 3 種、鎮咳去痰剤 8 種（内コデインリン酸塩散 1%4g)、整腸剤 2 種とファモチジン、ツロブテロールテープ、吸入 2 種、トローチやうがい薬であったが、一切反応なし。病院小児科の検査 2 回とも異常なし。当院で『素問』「五臓皆令人咳,非獨肺也」を参考に、煎じを含め、多彩な漢方エキス剤を用いたが微効であった。治療 5 ヶ月目に『素問』には記載のない肝気虚による条達失調と考え、桂枝加黄耆湯を主に用いたところ、咳嗽に著効した。
（2024 年東洋医学会学術総会発表）

② 13 歳女児、コロナ陽性後より鼻水・咳嗽を繰り返すようになり、カルボシスティン・アストミン・フェキソフェナジンが処方された。2 週間前の別の医院でも、同じ処方であり、咳嗽が持続するため、発病 40 日目に当院初診。咳は昼多夜静で、腹診で心下吸気苦-気海穴付近圧痛・両下肋部側面圧痛を認め、肝気虚の条達失調による咳嗽と考え、黄耆建中湯を主に処方し、服用 1 日目で咳は消失した。

【 結果 】

難治性咳嗽（昼咳夜静）には、肝気虚に用いる黄耆主薬の剤が有効であった。

【 考察 】

肝胆は体陰用陽（肝血⇄肝気）→胆気発芽の関係であり、ここでの肝気虚は伸びやかに働けない条達失調の病態と考えた。急性期 COVID 感染には、少陽（表）胆の気実（鬱）に疏肝の柴胡剤が用いられるが、罹患後症状には、疏肝剤や通常の補気剤では効果を認めない症例も多い。それは厥陰（裏）肝の気虚による膈条達失調で、他臓も伸びやかに働けないため、多彩な症状が出現すると考える。

キーワード：肝条達失調、肝胆気虚、難治性咳嗽、昼咳夜静、COVID 罹患後